

小平西のきずな

「小平西地区地域ネットワーク」ニュース No. 7

2013年9月21日（土）発行

発行責任者：草野篤子（白梅学園大学）

TEL： 042-346-5639

住所：〒187-8570

東京都小平市小川町1-830

大盛況、カラオケ・コミカフェ

家族・地域支援学科学生 佐藤由望(さとう・よしみ)

6月14日のコミュニティー・カフェ当日は、午前中は雨模様で、「来てくれる人は居るのだろうか。」「これじゃ、来られそうもないよね。」と学生たちは心配を口にしていました。しかし、その心配をよそにお昼頃から晴れ間が見えてきて、多くの方がコミュニティー・カフェに参加するため、足をお運びくださいました。その人数は学生たちの予想をはるかに超えていました。

今回3回目ということで、一度参加された方もいらっしやり、「この前はありがとう。楽しかった。」「今日はどんなことするの?」と、この日を心待ちにされていたようでした。そんな声や笑顔を見ているとたまらずうれしくなりました。

今回はゲストをお招きし、その方にアコーディオンを演奏していただき、みんなで大合唱をしました。参加された方の大半がご高齢の方で、披露してくださった曲が懐かしいものだったためか、楽しそうに口ずさまれているのが印象的でした。学生たちもゲストの方がどのような曲を披露して下さるのか知らされていなかったため、ワクワクしていました。

帰り際に「ありがとね。」「また来月もありますので、



ぜひいらしてくださいね。」「また来ます。」という学生と参加された方の会話を耳にしました。楽しんでいただけてよかったですし、ふたりの会話が自然と初対面なはずなのに、そう思えないのが不思議でした。

今回は歌がメインであったため、お話の交流は前回に比べ少なかったですが、うれしさや楽しさ、また、懐かしさを共有するといった交流が盛んにあったと思います。

私は副実行委員長という立場で周りを見渡していましたが、まだ学生たちは不慣れな様子がみられ、改善するところはまだまだあるように感じられました。しかし参加された方々に助けられ、緊張がとけ、コミュニケーションの仕方など無意識のうちに学んでいるのではないかと思います。運営をしているのは学生たちですが、運営ができているのはそういった周りの方々のおかげであると考えました。

7月で一旦最後となるイベントですが、子ども世代や親世代といった人たちがもっと参加してくれると色濃い世代間交流になるのではないかと思いますので、最後の集大成として学生たちが今までとは違った企画や動きを見せていけたらと思っています。

「西地区地域ネットワーク」って何?

昨年3月17日にさまざまなNPO、ボランティア団体、民生・児童委員会、町内会、大学・学校などに関係する方々が「お互いの顔が見える地域づくり」を目指して立ち上げました。個人ベース(団体の担当者でも可)の加入を基本とする開かれたネットワークです。

市民の皆さん、一緒に活動に参加なさいませんか?

小平西地区ネットワークの輪の中へ突入！

市民生活部 市民協働 照井 幸枝

今年の4月1日付で市民生活部市民協働担当へ異動となり、市民活動支援のつながりから「小平西地区地域ネットワーク」の輪の中へ、晴れて入れていただくこととなりました。

異動してからまだ半年足らずですが、地域懇談会や世話人会議に出席させていただき、第一ブロック（小川西・栄町地域）のコミュニティ講座のお手伝いをさせていただく中で、小平西地区ネットワークの熱い！活動を目の当たりにしました。

地域に足を運び、顔を合わせながらの交流は未知のことで不安もありましたが、市役所の中にいるだけでは感じるができない、地域の思いや考えを直接お聴きするととても有意義な機会でした。

また、「地域の絆づくり」へ向けた機運の盛り上がりを感じることができ、市職員としても一地域人としても、視野が広がり新境地の開拓ができたと思います。そして、何より地域の皆さんの温かいお言葉や笑顔は、当初の不安を吹き消すかのように安心して小平西地区ネッ



トワークの輪の中に入ることができ、仕事を進めるのにあたっての大きな後押しになっています。

少子高齢化の進行、地域のつながりの希薄化など、社会の変化に伴い地域コミュニティの役割が

再認識され、顔の見える関係性や人との信頼を高めていくことが求められています。

そんな現況の中、「小平西地区地域ネットワーク」の取り組みがコミュニティ活性化の一つのモデル地区として、西地区だけでなく小平全域へ広がることを期待しています。

まだまだ何もわからない不束者ですが、まずは地域に飛び出すことを意識し、皆さんの声に耳を傾けて一緒に考えていきたいと思っています。

どうぞよろしく願いいたします。

戦争のない日本を未来に繋げたい

家族・地域支援学科 2年 作本 真

7月12日のコミカフェで岩井忠正さんのお話を聞いて感じたことが2つあります。

1つは戦争の恐怖でした、ただ相手に殺されてしまうだけではなく、国全体で洗脳とも言えるような、団結を強いられたということです。特攻隊とは勝利の為の道具のように扱われ、命は天皇陛下のものであるから生きる死ぬかの選択肢が生きている本人にないということでした。

これは現代で考えると人権なんてないといふ世の中になってしまい秩序が乱れて大混乱に陥ってしまいかねないと思いました、しかし岩井さんが生きた時代はそれが当たり前のように刷り込まれていて、もし私もそこにいたと考えると今の平和はすごく貴重なものなんだと再確認することができました。

2つ目は憲法9条改正のことでした。これは私も少し前から不安には思っていました。あまり緊張

感などはその時はなかったのですが、岩井さんの訴えを聞いて私も真剣に考えるようになりました、戦争はもちろん嫌ですが最近隣国の日本への印象がよくなる、いつ戦争に発展してもおかしくないと思います。

今回出された改正案は一見妥当かのように見えますが、私は先代の方々が築き上げてくれた今の憲法9条を、今こそ大事にした方がいいし、戦争を直に体験していない政治家が勝手に9条を改正するのもおかしいと思いました。

私は今年で二十歳という人生の1つの節目を迎え、同時に選挙権ももらえるので、先代の方々が築き守ってきた平和を今度は未来を担う私たちが武力を行使せずに平和というものを声を大にして主張して戦争のない日本を未来に繋げていきたいです。

防災の「きずな」づくり

世話人 早田 満

先日民生委員の芳井氏から白梅学園大学で西ネットの会合があるのでのお誘いがあり出席しました。私も自治会、地域防災連合会にかかわっていましたので、これを機会に皆様とお近づきになり特に防災に関連した事で輪が広げられるのではないかと考えました。

「東小川橋地区防災対策連合会」は近隣の自治会、個人と社会福祉法人黎明会(7事業所、災害時要援護者800名)と連携し26年前の昭和62年に発足しました。機材も可搬式消防ポンプ・油圧式レスキューツールなどエンジン付き機材だけでも6台を持ち年間を通じて市、消防署と年3回その他応急救急訓練、随時機材取扱い訓練、機材メンテナンスなどの活動をしており、今後は連絡通信網を強化したいと思っています。

平成元年東京都の「わが町はわが手で守る」の標語のもと「消防ふれあいネットワーク」応援協定を結びました。平成15年3月1日小平消防署主催の「防災コンクール」(31団体参加)では優勝、平成25年4月東京都の地域防災計画で小平市より推薦され「東京防災隣組」に認定されました。

会は足掛け26年になり高齢化が進み、発足当時の中心メンバーの中にはすでに80歳を超えている人もおり、次世代へ引き継ぐために色々働きかけをして若干の方に

個人参加していただきましたが、なかなか思うようになりません、小平市は、幸いにも水害の心配はないのですが、近くに立川断層が通っており、関東平野の直下型地震が起り連動した場合は大災害の恐れもあります、災害時に助かった人の70%は近隣の「自助」「共助」で助かっているとの事例もあるので、「隣は何をする人ぞ」ではなく日ごろから訓練の受けられるようにして備えておきたいものです。



災害直後は、行政はほとんど手一杯で末端には手は届きません「なんとかしてくれる」ではなく近くの皆で助け合えるよう普段から備えておくべきで、今何もないからそんな無駄なことはしなくてもよいと発言する人もいますが、災害はまだ予測できないのです。

すべての子どもたちの笑顔のために

——福島の子もたちと親子を今年も清里へ招待——

福島の子もたちをまねく小平の会：日向 美砂子

東日本大震災による原発事故から3年目になり、清里に福島の子もたちを招待してのサマーキャンプも3回目となりました。これまで宿泊に使っていた小平市の保養施設八ヶ岳山荘が老朽化により閉鎖したため、今年は羽村市の保養施設を使いました。東大和と羽村のグループとの合同開催です。

8月9日の2泊3日、乳幼児・小学生・高校生入り混じった26人の子もたちと3人の保護者のみなさんが参加(中学生1名は残念ながら体調不良のため欠席)。

清里では、企画主旨に賛同していただいた社会福祉法人や公益財団法人、現地のボランティアのみなさんの



(写真：ひまわり畑の迷路を見て走り出す子どもたち)

協力で、芋ほりや原っぱでの遊び、野外での木工教室、採れたて野菜のバーベキュー、ひまわり畑の迷路、森の中の散策、そして宿泊施設での縁日や星空観測……などなど思い切り遊んでもらうことができました。

参加した子どもたちからは「芋ほりが楽しかった!」「何も気にせず思い切り遊べてよかった」「サマーキャンプをやってくれてありがとう」などたくさんの感想が寄せられました。また、終了後に保護者の方へお願いしたアンケートからは「ほかの保養にも参加していますが、この企画はとてとてもいねいな内容で連絡や報告などもしっかりしています」という嬉しい声も寄せられました。

福島での生活については、普通に暮らしてはいるが子

どもたちの外遊びについて長くないように時間を決めていたり、放射線量の高いところには行かないようにしているという状況が伝えられています。

バスで送迎するときに見る車窓の風景は、清里と同じ緑豊かな光景です。しかし、以前と同じ状況には戻っていません。帰り際「来年もまたやってね!!」と見せてくれた屈託のない子どもたちの笑顔に、「たいへんだけど続けなきゃ」という思いが募りました。

最後になりましたが、ご協力をいただいた協賛団体やたくさんの方々に、本当にありがとうございました。これからも、すべての子どもたちの幸せのためにおとながつながっていければと思います。

西圏域のモデル事業「見守りボランティア事業」の紹介

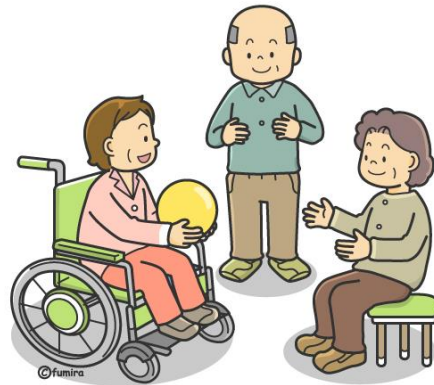
小平市地域包括支援センターけやきの郷 増永 ハツ子

近年、急速な高齢化もあり、地域のつながりが希薄化しています。近所付き合い・地域の潜在的見守り機能の低下は著しいが、元気な高齢者は地域で多く生活をされています。

しかしこうした元気な高齢者も退職後は、外出の機会が減ると人との交流も減少します。そこで「元気な高齢者の外出の機会を増やし介護予防を推進しよう」、また「見守り活動で地域のつながりを再生し安心安全な地域づくり」を目的として、平成23年10月～平成25年3月にかけて、小平市 地域支援係、社会福祉協議会 ボランティアセンター、小平市地域包括支援センター「けやきの郷」の三者でモデル事業がスタートしました。

見守りボランティアの方々には、2回の講座を受け「介護予防見守りボランティア登録」を行います。登録車は、日常生活の中で「さりげなく」地域の高齢者を見守り、異変を察知した場合は、地域包括支援センター「けやきの郷」に通報します。登録後は2か月に一回の交流会に参加して頂き、健康体操や傾聴講座など、自身の健康維持や知識の習得に役立つ講習を受け登録者同士の交流を深めます。

交流会では、テーマを決めてのグループワークや講師を招いて勉強会を行ったり、地域を知るためにフィールドワークも行いました。また、実際の地域活動を活発に行っている立川市大山団地の自治会長に「自治会での取



り組んでいる見守り活動」の講演等も行って頂きました。

お陰様で現在31名の方が見守りボランティア登録をいただいています。

今までの実績としては、5件の通報がありました。利用者の状況に合わせ、市と同行訪問して実態把握を行って対応したケースや、室内の環境を整備することで転倒リスクを抑え住宅改修につなげたりしたケースがあります。また、介護保険の対象とまではいかないが、定期的な安否確認が必要と判断した際は、地域包括支援センターの「見守り事業」に登録して頂き、民生委員の方々や市とも情報共有してきました。

平成25年度は、小平全域で「見守りボランティア事業」に取り組んで行くこととなりました。引き続き、多数のご参加と多数の登録を宜しくお願いいたします。

自治会懇談会を開催して

第2ブロック世話人 芳井正彦・足立隆子

5月19日(日)、今春開設された小川1丁目地域センターに各自治会の代表の方に集まっていただき、第2ブロック初めての自治会懇談会を行ないました。参加者は自治会から6名、民生・児童委員3名、白梅学園大学から奈良先生・関谷先生、世話人の芳井・足立でした。

初めに、日ごろ皆さんが地域でどのようなことを感じているか、どのような課題をかかえているかのなどをざっくばらんに話していただき、世話人が課題解決のヒントや今後の活動はどのようなことを取り組んでいけば良いのかとの懇談会の主旨と目的を説明。

奈良先生から「地域との結びつきの大切さから白梅学園大学に家族・地域支援学科が設立されたが、3.11以降ますますその重要性を感じている。小平西地区の地域ネットは2012年3月に立ち上げ、地域で顔の見える関係、絆づくりを目指している」とのお話がありました。



pixta.jp - 5272135

その後は出席の皆さんから、ご自分の所属する自治会のお話しを伺いました。どの自治会も設立から30~40年以上の年月を経過しており、会員の高齢化が一番の問題になっているとの声が上がりました。以下、お話しいただいたことを列挙します。

- ・ 地域ネットのことは全く知らなかった。輪番で会長になり、「西のきずな」を見た。エリアが広すぎる気がした。
- ・ 定年退職者が増えているはずだが全然わからない。
- ・ 南台病院の介護認定を受けている人が多くいる。
- ・ 隣の自治会との接点が欲しい。
- ・ 社会福祉法人黎明会と地域防災対策連合会を結成しており、小平市で唯一の「東京防災隣組」の認定を受けている。最近は脱会するところが多い。高齢

化で後継者の育成が急務である。

- ・ 独居老人の把握に取り組んでいる。
- ・ 防災倉庫の鍵は紛失すると困るのでナンバー式に取り替えた。
- ・ 回覧は紛失したり留まってしまうと困るので、全戸配布にしている。
- ・ 小学生がいる家は1軒だけ。町内の人のことをよく知らない。聞くのも悪いが、知らないままでもいいものかと考えてしまう。
- ・ 自治会の存在自体が無くなりそうな所がいくつかある。なるべく地域の会に出て顔見知りになることは大切だと思う。せいぜい両隣ぐらいしか交流がない。
- ・ 大学がこのような活動を支援してくれるのは有難い。
- ・ 役員会も特に開かず「ゴミ0デー」に側溝の掃除などを行っている。総会は大半が主婦の出席である。
- ・ 小学生のいる家庭は2~3軒あるが、共働きであり関わってこない。
- ・ 若い世帯は自治会費は払うが、回覧板は回さなくていいというスタンス。
- ・ 防災拠点の鍵を民間に管理させてもらいたい。
- ・ いざという時のために西高との境のフェンスの鍵を預らせてくれて喜んだが、西高側からしか開けられない。
- ・ 隣の自治会とラジオ体操をしている。

など。
全てを書き上げることは出来ませんでしたが、皆さん活発に意見を述べてくださいました。第2ブロックとして今後、何をしていけばいいのか考えるヒントをいただいた気がしました。

今回の懇談会を機に皆さんが顔見知りになり、地域で会った時には挨拶をかわし、更に交流を図っていければこれ以上嬉しいことはありません。そして、このような交流会を一回だけで終わってしまってはならないと思っています。

「地域ネット」のことは全然知らなかったという方がおられたように、多くの人に知っていただき、理解され、支持されることが活動を成功させる上で大事なことであり今後も二回、三回と粘り強く持続させていきたいと思っています。

地域の力

家族・地域支援学科 山路 憲夫

つまりは人ではないか。東京多摩地区のいくつかの自治体と関わるようになって「地域の力」とはなんだろうかと考え続けてきた結果、当たり前結論のようだが、つくづくそう思うようになった。

ここ 10 年来、自治体の福祉関係の計画づくりや地域の絆づくりなどの議論に加わってきた。が、なかなか進まない。堂々巡りのような議論が繰り返されていることもしばしばある。地域の実情を見ると、そんな悠長なことを言っておられない。少子化、高齢化は、従来型のやり方では間に合わない深刻な状況が進む。

2012 年度からの介護保険改正の柱に「地域包括ケア体制の構築」が掲げられた。タテ割りの法制度を超え、高齢者だけでなく、障害者も子どももすべての人々が住み慣れた地域で、在宅で安心して暮らせるよう、それぞれの地域でつくりたいか。求められるのが地域の力である。「地域の力」の源泉は、そこに住む地域の人である。

東村山市の子育て総合支援施設「ころころの森」建設について、2008 年の末、当時の N 児童課長らが突然訪

ねてきた。統廃合により所有地の東村山市保健所跡地に子育て支援施設を建設したい、白梅学園に建設計画づくりと運営を引き受けてくれないか、という提案だった。

大学にマネジメントまでできるのか、迷っていた中で決断させてくれたのが、N 課長の「保育園に通えない親子には税金の恩恵が受けられないのは不公平ではないか。その親子が安心してくつろげる場を作りたい」という言葉だった。確かに、保育園に通えない、通わない幼児は 5 人に 4 人もいる。母親たちの多くは孤独だ。その親子の居場所づくりとして子育て広場が 2000 年頃から始まったが、ゆったりとくつろげる場が少ない。

「子ども学」を掲げる白梅もそれに参画する役割があるのではないかと決断した。2010 年秋「ころころの森」がオープンした。今や多い時には日に 300 人もの親子が訪れる。それを見るたびに N 課長の言葉が思い出される。

行政も地域活動もそして大学も、それを担うのは人である。その人々が地域を作る熱い思いを持てば、地域の力は必ず実を結ぶと思う。

ネットワーク担当者一覧

(各地区のイベント、相談事は世話人にご連絡ください)

ブロック	世話人	教職員
1	西 克彦・布 昭子	山路・瀧口 (優)・井上
2	芳井正彦・足立隆子	関谷・土川
3	石川貞子・久保田進 穂積健児・大内智恵子	草野・西方・牧野・瀧口 (眞)
4	渡辺穂積・萩谷洋子 福井正徳・桜田 誠 細江卓朗	森山・杉本
全体的		奈良・長谷川・成田・吉村

(今後の日程)

10月19日(土)～20日(日) 白梅祭
20日(日) 小平市民まつり
27日(日) 元気村・NPOフェスタ

お願い: このニュース『小平西のきずな』の編集方針は、「顔の見えるネットワークづくり」を目指して参加団体(者)の活動などを紹介し、文字通り「市民のきずな」を築いていこうとするものです。

ニュースの全部または一部を改編することはお断りします。もし使用したい場合は編集担当(奈良まで)お申し出ください。

投稿募集: このニュースレターは皆さんと一緒に作るものです。活動やイベントの企画などについての原稿をお寄せください。

Email: ever.onward.nara@xd5.so-net.ne.jp 奈良

編集後記: 今夏は異常気象で猛暑日が続いたり竜巻が襲ったりしましたが、ようやく秋らしい涼しさが訪れてきました。『小平西のきずな』も皆様の協力を得てさらに充実させていきたいと考えます。よろしく。(N)